



碧南ロータリークラブ週報

第2727回例会 平成27年3月25日(水)

- 会長 石橋 嘉彦
- 幹事 伊藤 正幸
- 会場監督(SAA) 清澤 聡之

2014-2015 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp

- 会報委員 奥津順司・藤関孝典・岡本彰人



●斉 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

●本日のメニュー

春のお弁当 小伴天

会 長 挨 拶

彼岸も過ぎ、桜の開花も宣言されました。1878年の今日、東京に中央電信局の開局された日で、今日は電気記念日です。先日、電気を無線で送る実験に成功したとの記事がありました。これまで電線を使わずに電気を送る技術で実用化されているのは、電磁誘導式でリニアなどに利用されています。これは大きなエネルギーを送る事はできますが、送電距離が短い事が欠点です。今回成功した実験は、電波放射型と呼ばれ、マイクロ波を活用するもので、長距離の送電に適した次世代のインフラ基礎技術として期待されています。



石橋嘉彦会長

今回は、10キロワットの電力をマイクロ波に変換し、500メートル先に届ける事に成功したそうです。無線送電技術は、海上風力発電や離れた場所への送電をワイヤレスで送る事ができます。今、5年後の実用化を目指しているそうです。子供のころ夢見た宇宙太陽光発電が現実のものになろうとしています。しかしながら、原子力発電所1基分に相当する、100万キロワット発電するのに25兆円かかるそうです。

食料とエネルギー問題は、これからの世界では大きな紛争の火種になるものだと思います。こうした技術が紛争のない世界をつくるのに役立つものになってもらいたいと思います。

電気の事は渡部さんがよくご存知だと思いますが、今日は武道家としての渡部さんに卓話をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

幹 事 報 告

本日は4点ほどご報告させていただきます。

- ・ 例会変更等は半田 RC 様よりお知らせがございます。幹事報告書に記載してございますので、ご覧ください。
- ・ 第2760地区ガバナー事務所より、「心に残るロータリー体験」原稿募集のお知らせが届いております。ガバナー月信5月号に掲載されます。4月6日までにガバナー事務局までEメールにてご送付下さい。
- ・ 次週4月4日開催のIMの記念品と、プログラムが高浜 RC 様より届いております。
- ・ 次週例会終了後、201号室にて理事会を開催致します。理事、役員の方はご予約をお願い致します。



伊藤正幸幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 68 名 (内出席免除者 16 名の内出席者 10 名)出席者 60 名	
出席対象者 60/62 名	出席率 96.77%
欠席者 8 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

- 石橋 嘉彦君 } 権現公園植樹にご出席いただき、ありがとうございました。
伊藤 正幸君 }
- 長田 昌昇君 先週は、南のはてまで植樹に来ていただき、ありがとうございました。道に迷われたでしょう。73年下に住んでいますが、迷いました。
- 山中 寛紀君 この21日、22日連休に少し骨休みに出掛けましたが、余り疲れはとれませんでした。
- 鈴木 健三君 3月20日に長女に男の子が生まれました。顔立ちがまあまあなので、将来は俳優か歌手にでもするつもりです。
- 黒田 泰弘君 本日、渡部さんにご無理申しましたが、楽しみにしていますので、よろしくお願い致します。
- 鈴木 泰博君 昨日は黒田昌司様にお世話になり、ありがとうございました。
- 平松 則行君 孫が小学校1年より7年間連続皆勤通学をしました。嬉しくて、嬉しくて！ バカでもいい！腹黒でもいい！まごころが無くてもいい！健康であればと思います。 私の財産が少しなくなりました。

「剣道・武士道・兵の道」

渡部哲也君



渡部哲也君

ただいまご紹介いただきました中部電力碧南火力の渡部でございます。最近、卓話は大物の方が続いておりますので、大変ハードルが上がっておりますが、毎回豪華なものばかり食べているとお茶漬も食べたいかな、というところで今週はお茶漬の週という事でよろしくお願い致します。

早いことで私が碧南にきてから早9ヶ月が経ち、ロータリーの方には本当によくして頂いておりますので、この場をお借りして感謝申し上げます。

今日は、「剣道・武士道・兵の道」という事でお話させていただきます。

自己紹介ですが、私は剣道錬士六段、居合道二段、合気道初段を保有しています。小学校一年のときに兄の真似をして剣道を始めて以来、何かしら武道とは縁を切ることなく以降四十数年間過ごして参りました。

私には子供が3人おまして、長女はこの春から大学院2年生で合気道2段です。長男は大学3年生で剣道4段、次男はこの春から大学生になりますが、剣道3段です。渡部家の武道の段数を足すと18段になります。そこで問題ですが、渡部家で一番強いのは誰かという事ですが、家内でございます。家内は武道経験ゼロですが、そんな感じでございますので、今日は気楽に聞いて頂けたらと思います。

剣道に関して、何段が最高ですか、とよく聞かれますが、全日本剣道連盟の段級位制度では、最高の段位は八段です。かつては、十段までありましたが2000年に審査制度が廃止されました。五段までは各県で審査が受けられますが、六段以上は全国審査という事になっております。六段以上を剣道では高段者という呼び方をしております。段位とは別に、称号という制度もあり、これは錬士、教士、範士の三種類があります。

現在、「剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である。」と定義されています。人間形成が主です。元々は、剣を使つての殺傷術が、人間形成の道に転換した訳です。そこで、武術が「道」へ変わったのはいつごろか、というのをお話したいと思います。

柳生宗矩の「兵法家伝書」、宮本武蔵の「五輪書」、この二書は「近世の二大兵法思想書」と言われています。共に戦国時代から江戸時代初期に活躍した剣豪です。これまで人を殺す技術であった剣術「殺人刀」を、武士としての人間形成を目指す「活人剣」へ昇華させたとされており、

徳川将軍家の兵法指南役であったのは柳生宗矩、柳生但馬守とも言います。彼の流派は、いわゆる柳生新陰流兵法であります。彼は、徳川家光に取り立てられ一万石の大名になりました。一介の剣士が大名になった唯一の例と言われています。ドラマで有名な柳生十兵衛のお父さんでもあります。彼の書いた「兵法家伝書」は大將の兵法を説いた書と言われており、兵法の理を通してリーダーに必要な要件を説いています。

一方、宮本武蔵は、幕府の要職についた宗矩とは全く異なりひたすら兵法家でした。吉岡一門との決闘や巖流島の決闘が有名ですが、それらは全て二十代の若い頃の話です。その後は「朝鍛夕錬」不断の修行をひたすら継続して「二天一流」と名付け「五輪書」を記したのは、五十歳の頃です。

それらに加えて、沢庵和尚の「不動智神妙録」は柳生宗矩に多大な影響を与えました。剣の道と禅は、生死ぎりぎりの場を見つめて修行するという意味で究極のところは一致します。これを「剣禅一如」といいます。心に着目して書かれています。

漫画や小説では、宮本武蔵と沢庵和尚や柳生家が関わりがあることになっていますが、史実には何も残っていません。それなのに、内容は少なからず共通しています。

「五輪書水の巻」で宮本武蔵は、「心の持ちやうは常の心に替ることなかれ。」と言っています。一方、「兵法家伝書」では「平常心是道」という言葉があります。「此の平常心をもって一切の事をなす人、是を名人と云う也。」とあります。さらに、「不動智神妙録」には、「無明住地煩惱」と書いてありまして、「心がとらわれると切られる。とらわれる心は迷いである。」というようなことが書いてあります。

平常心とは、動かない心なのではなく、とらわれない心のことを表します。水に浮いたひょうたんのように例えられます。全てのものに心を止めないことを至極とするそうです。

また、不断の努力が重要ということも共通しています。

宮本武蔵は、「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす。能々吟味あるべきもの也。」と言っています。柳生宗矩は、とにかく習い尽くせと言っています。

実は、私は、過去の先達の書を読めば、そこには極意が書いてあって上達の近道になるのではないかと期待していたのですが、どちらの書も結局のところは、不断の努力が重要であり、近道はないと思い知ったのでした。

これまでの話は、戦国時代末期から徳川時代初期の頃の話なのですが、徳川幕府も政権が安定してきますと様相が少し変わってまいります。ここからは「葉隠」の話をしていきます。「武士道といふは、死ぬことと見つけたり。」この一節があまりにも有名です。

「葉隠」は、正式には「葉隠聞書」といい、佐賀県は鍋島藩士の山本常長が武士としての心得を口述したものを田代陣基（たしろつらもと）が筆記したものです。先ほどの柳生宗矩や宮本武蔵よりほぼ100年の後となります。

太平洋戦争の特攻や玉砕の際に、「武士道といふは、死ぬことと見つけたり。」この部分だけを取り出して政治的に使われることが実際にあったようです。そのため、武士の自決を賛美する書として誤解されやすいのですが、本当の「葉隠」は自決を賛美するような内容では決してありません。むしろ、何事も死ぬ気になって行動しろ、無我夢中で必死になって生きる、と言うような意味のことが随所に書いてあります。すなわち、死ぬことを薦めているのではなく、一生懸命生きろということを語っているのです。

この「葉隠」の面白いところは、処世術とも言える内容が豊富に書かれています。まるで、組織で働くサラリーマンのハウツー本のようなようです。

武士道という言葉が広く使われるようになったのは、明治以降のことですが、その明治の

武士道は、私がこれまで述べてきた昔からの武士道とは違うのです。

明治の武士道といえば、新渡戸稲造の著である「武士道」が有名です。本の中身は、ご存知の方も多いと思いますが、義とか仁とかがやたら強調されたいわゆる「道徳」の本です。剣の修行を重ねて、死と隣り合わせた戦闘の中で生き抜いてつかみとった教えである宮本武蔵や柳生宗矩の世界とは明らかに違うのです。

新渡戸稲造の「武士道」は元々、英語で書かれた本です。背景をみますと、当時の日本は、欧米列強と肩を並べようと必死なときです。日清戦争の末期の頃、黄禍論が欧米で言われ出します。欧米には、キリスト教に裏打ちされた普遍的な道徳や価値観があるが、日本人にはそれらは理解できないから危険であるということです。

これに対抗するため、日本民族は在来的に道徳を備えているということをキリスト者に対して主張するための道具として「武士道」を用いた訳です。Soul of Japan という副題は、「大和魂」という意味です。昔ながらの武士道とは違うということを申し上げているだけで、決して、本の内容を否定している訳ではありません。

最後に、現代ではどのように指導しているかお話しします。全日本剣道連盟では、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」としており、人間形成に軸足を置いています。

ニューヨークのとある道場では、毎回稽古の始めに「剣とは心なり。心正しからざれば、剣又正しからず。」と皆で唱和します。また、私の師匠がよくおっしゃっていた言葉は、「この世で一番大切なものは何かわかるか。」「命だ。」「では、命を大切にするために何をしたらよいか。」「正しい呼吸だ。」「正しい呼吸、正しい姿勢、正しい心。これが大切だ。」

呼吸の一つ一つが稽古だとおっしゃって、本当に実践されていたのでただただ感心するばかりでした。

時代背景によって、武道の置かれる立場も変わります。これから将来の武道がどうなっていくかは誰にもわかりません。しかし、自らが信じて求めるものをひたすら修練を重ねていくという事が、振り返ったときに「道」になっているのだらうと思います。

以上でございます。本日はありがとうございました。

次回例会案内

平成27年4月4日（土）

西三河分区 I . M 15 : 00 ~ 衣浦グランドホテル

平成27年4月8日（水）は4日の振替休会